

森林塾通信

第15回森林塾報告 テーマ「きのこ菌打ち」 『秋が楽しみマイきのこ』

気象庁の暖冬予想を裏切って今年の冬は厳しい寒さ。そして、伊那合は大雪。田中さんのところのような、本当の雪国の方には怒られそうです。が都合一メートルほど降っ

て、「もう雪は要らん」と音を上げました。そんなこんなで島崎先生の山小屋界限も、何とか近づけるが駐車場の確保ができない状態で、急遽KOAパイン

パークに場所を変更させていただきました。今年度初めての参加だった菊間さんが連れてきたのか冷たい雨が一日中続くなか、屋根の下で菌打ちができたこともあり結果オーライだったと思います。ひよっとして連絡漏れの方がいたらごめんなさい。

昨年の実績をよく調べずに種駒やオガ菌を注文したので、普通栽培の原木が三本、短木栽培で約一立方メートル分と、昨年の五割増以上の量をこなさなければならぬとなりました。これに手渡し運搬も加わり本当にお疲れ様でした。腕や腰が痛くなった方がいたのでないでしょうか。

シイタケ、ナメコ、ヒラタケ、クリタケと四種類のきのこを打ってみました。佐藤忠人さんが用意してくれた原木はすくすくと伸びていて傷もほとんどなく、太さも適度で最高のものでした。

今日打ったきのこが本格的に顔を出すのは来年の秋以降ですが、ここ二、三年、このあたりの山の雑きのこ(可愛

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 早川清志 題字 島崎洋路



2年目の藤本、金子ペアと皆勤の池田さん、手際良く植菌



「栽培できるきのこは木材腐朽菌です」と島崎先生



ご自宅にはたくさんのマイきのこ、保科先生

そんな呼ばれ方だけどもツタケにひけをとらない味のものだってあるぞ(は不作だったこともあり、待ちどろしいかぎりです。

原木栽培の場合、一般的には添加物、栄養剤や農薬とは無縁で、自然に近いものだけに今日日貴重な健康食品です。もし場所さえ許せば、ご自宅の裏庭にほだ木を何本か置いておくとマイシイタケやマイナメコが収穫でき、ちよつとリッチな気分になれます。

二千年度最後のKOA森林塾でした。またまたたくさんの方が集まってくれました。二千年度、皆勤賞が一年目の方で池田さん、稲垣(久)さん、太田さん、鈴木(敏)さん、芳賀さん、森さんの六人。ありがとございませした。二年目の村谷さんは二年連続皆勤の新記録で本当に頭が下がります。



鈴木母、ハンドルは左につけたほうが持ち易いの。



去年も今年もこねこねベタベタが大好き本城さん

また二十名を超える皆さんが十回以上の出席で、嬉しい限り、感謝感謝の一年でした。

今回の内容

第15回 2月24日(土) きのこの菌打ち

8時30分 KOAパインパークに集合。保科先生、島崎先生のあいさつ。きのこについて、普通原木栽培の方法についての説明。とくにシイタケの菌は各メーカーでいくつもの品種を取り揃えています。

す。自然状態で手を掛けずに春、秋の収穫を待つのか、それとも夏に浸水発生させて使いたいのか、生しいたけがいいのか、乾燥して使いたいののか考えて選ぶ必要があります。森林塾の場合、シイタケは春、秋の自然発生で形もよく大きな森産業の「にく丸(森290号)」を使っています。ナメコ、ヒラタケ、クリタケなども早生、中生、晩生の品種がありますので



そろそろ3歳、混杜(アキト)くん、ご満悦

参加者/池田さん、稲垣(久)さん、太田さん、岡田さん、小沢さん、河尻さん、神田さん、具呂さん、坂田さん、佐藤さん、鈴木さん夫妻、田中さん、中村(輝)さん、芳賀さん、松下さん、皆川さん、森さん、山口(亜)さん、横井さん、小川さん、奥田さん、奥本さん、金子さん、

組み合わせさせて植菌すれば長く収穫できることになります。
10時 植菌開始。原木を運び込んで、ドリルで穴をあける人、木槌で種駒を打ち込む人、後は久しぶりの再会で積もる話のグループ。途中小休止ははさんでシイタケ植菌がほぼ終わる。
12時 昼食 野沢菜、小沢製と早川製の味比べ。
1時 ナメコのオガ菌を使って短木栽培用の原木に植菌開始。オガ菌一に対し米ぬか二、おが屑四の割合で増量し、水を含ませ木口にペタペタ。
二つ一組のサンドイッチ状の植菌済み原木をお持ち帰り用にわら縄でくる。保科先生の名人芸に歓声があがる。
2時 普通原木栽培の植菌再開。ナメコ、ヒラタケ、クリタケ。そろそろ飽きて



テレビに出すにはちょっとむさい

河原さん、菊間さん、藤村さん、藤本さん、本城さん、村谷さん、山口(み)さん、大野さん、竹内さん
講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/後藤、川島、坪木、早川

きた。二ヶ月も三ヶ月もこの作業を続けなくてはいけないプロの苦労がわかる。ドロップアウトの遠藤さん、これだから大変ですね。
植菌済みの原木を手渡しですべてアカマツの林の中に運ぶ。棚積みにして仮伏せ。今年か来年の六月の七月の本伏せを待つばかり。
3時 終了。保科先生、島崎先生のあいさつ。事務局から13年度の概要説明。
3時30分 解散。一年間ありがとうございました。



3人で仲良くこねこね。耳たぶくらいの柔らかさに

今回の復習&豆知識
きのこ、食べ方、作り方
島崎先生の説明にもありましたが、栽培できるきのこは現在のとこ木材腐朽菌のみです。マツタケのように菌根を作り、木と共生しているきのこはまだこれといった栽培方法がありません。さて、今回菌打ちをしたきのこを中心の特徴、旬、食べ方などを主観を交えて紹介します。



あまり厚くすると乾きやすく良くない

このきのこはいちどきにとくさん採れるので、醤油、砂糖、酒、みりん、で佃煮にすればしばらく楽しめる。ご飯に載せると美味しいよ。

一、シイタケ
今回の品種は春と秋に自然発生するものです。春は桜の咲くころから一ヶ月くらい。秋は十月から十二月の間。どちらかといえど生食向きで、手のひらくらいのものに、醤油と酒をたらし、焼いて食べればたまらない。最高の肴ですが一枚でお腹一杯になってしまふ。たくさん取れたら天火でしっかり干して乾しシイタケにもできる。
各社で出しているジャンボシイタケの系統の品種は浸水による、夏出し用が多い。
二、ナメコ
十月の中頃から十二月くらいに発生。原木栽培のものはやはり五分から七分くらいは開かせたい。ナメコおろしは一般的ですが、てんぷらやバター炒めもいけます。多少気になる人もいる土臭さも油に絡めれば大丈夫。

三、ヒラタケ
先日はほかに原木がないので仕方なくでしたがコナラ、クヌギは今ひとつ適してはいません。クルミ、ヤナギ、ポプラ、ミズキなどほかのきのこではどうかという樹種が好まらしいのです。
ナメコより少し後れて十月の中過ぎ発生。実に品の良い、おとなしい顔をしたきのこで、見かけどおりにくせがない。味に個性がない、という事はどうな料理にも合うという事ですが、味噌汁などではやはりやや物足りなさがある。中華、フランス料理のように油を使ったものか、煮物。歯ざわりはともよい。

四人にあげれば喜ばれること必至。
四、クリタケ
ナメコと同じくらいの時期に発生。野生のもので大きな株に竹魚籠一杯ほど生えているのを見つけたら、とても嬉しい。きのこらしい顔をしたきのこ。ヒノキやカラマツからも発生する無節操なやつですが、他のきのこが不作でもでてくるから気候変化に強いのかも。原木栽培の場合、ほだ木を土に埋めてしまったほうが成績が良い。菌のまわりは遅いほうなので、ほだ木が腐り始めた頃ようやく出てくる場合もある。
味噌汁に入れるとほり臭さと少し堅い歯ざわりが気になる。鍋物、煮物や煮込んでうどんの具などに。たくさん採れたら乾して保存できる。素朴な味で、シイタケにはかなわないが出汁もとれる。
お正月に頂いた保科先生の家のお雑煮。クリタケの風味がなんともいえず、いかにも故郷の味、いやー逸品でした。
五、エノキタケ
先日お見せしたように昨年森林塾で植菌したエノキタケが今顔を出しています。今年は雪が多く、その雪の下からでていまし

た。何回か菌打ちをしていますが初めての成功です。相当の湿度がないと発生しないようです。

味見をしてみたらうちはもてませんでしたが、どんな料理にも良く合います。びん栽培の白いエノキタケは鍋物などに良く使われ、脇役のくせに妙に我を通してしまいますが、原木栽培のものはそれほど自己主張は強くない。でも美味しい。下ざわりもよく、きのこの中では助演賞の筆頭候補です。てんぷら、汁物、鍋物、炒め物、佃煮等何でもござれです。

六、マイタケ

三年前に森林塾で植菌したものが昨年も細々と出てきました。菌床栽培のものが出回っていますが、そんななか、原木栽培のものは貴重です。菌が弱いので植菌前の原木をドラム缶で三時間以上煮沸するなどの殺菌が必要です。三年前、短木で百個以上を植菌してほだ化に成功したのは十個程度でした。とにかく難しく手がかる。でも出てきたマイタケをみるとやはり嬉しものです。



有賀建具店さん、有賀製材所さんの見学と木工教室

1月20日(土)朝から大変寒い日でした。森林塾のプラスで有賀建具店さんの見学をさせていただきました。例年は十月頃に組むのですが今年は日にちが取れず、プラスの自由参加としました。師範代の小島さんのお話。

通直で正円で、節がなく年輪も柔らかい、木工をやる人にとってそんな理想的な木の材料なんてそうそうあるものではない。いろいろな欠点(ある意味では個性)を時に隠し、時には逆に生かして使わなくてはならないという事。

やはりそれがプロの技のひとつかなと感じました。子育てにも通じる蘊蓄です。驚いた上で納得したのは10%~せいぜい30%という数字。これがなんだかわかりますか。材のうちで製品になる



小島さん、蘆蓄、小島さんを見学させてもらったあと、社長さんと一級建築士の竹内さんのお話を聞きました。三、四十年前までは家を建てたい人、設計士さん、大工さんと山林主の間に製材所があり、それらの人たちが

分です。切ったり削ったりで、建具づくりというのは木屑を作っているようなものとのこと。でもあのように素晴らしい製品になれば木も喜んでくれることでしょう。

もうひとつ、われわれ日曜大工派が心しておかなければいけないこと。「作図から木取りまでが重要度80%です」いきなり鋸やトンカチでぎこトントンとやっつてはいけません。

建具に使った広葉樹はこのあたりの木材市場にはなかなか出てきません。ご主人の有賀恵一さんはチップ工場を覗いては、種々の材を見つけていることがよくあるそうです。木もチップになるより建具になりたいことでしょうね。帰りに各種木のサンプルを分けてもらいニコニコ。



自動でホゾ加工ができる



奥まで届くと叩く音が変わるのが分かりましたか田中さん

取り持っていたそうですが、ハウスメーカーや専門の工務店の出現でそういったつなかりが希薄になってきています。そんななか、有賀製材所さんは頑張っています。地元の木を使った住宅を建てたいお施主さんを中心に年間数棟の木造建築を手がけています。浜田さんや芳賀さんのお宅はこちらで。

社長の有賀進さんはもと高校の数学の先生。その割にはお金の勘定に関心がなさそうです。 「18ミリのカラマツ床板は一坪九千円です」とのこと。これは安い。買ってきて自分で床を張り替えようか、と思うくらいです。午後にはじよんのび藤原の講師によるミニ椅子づくり。材料は島崎先生の山小屋の隣

のアカマツの、市場に出にくい2メートルの元玉。八月の伐出実践で出したもので



「ぼくの説明をよく聞いてからですよ」と講師じよんのび



夫婦仲良く指に切り傷、奥さんも縄文の人?

10センチほど積み、今年の大雪の序章でした。参加者/神田さん、山口(み)さん、奥本さん、金子さん、松下さん、村谷さん夫妻、藤本さん、小沢さん、宇津さん、宮川さん、小川さん、田中さん、河尻さん、平林さん、稲垣(久)さん、浜田(久)さん、片岡さん夫妻、塩田さん、須藤さん、高草木さん、河原さん、太田さん、竹内さん、池田さん、保科先生、島崎先生、藤原、坪木、早川

リレー通信

稲垣 裕



「このビデオ見てみー。貸してあげるわ。おもしろいで」と友人からのひとこと。

これが私と森林塾の最初の接点でした。

そこには広大な自然の中で、生き生きとし、楽しそうにしている人達が目に入ってきました。「なんや楽しそう！おもしろそう！自分にもできるんとちゃうか！こういふことがしたいんちゃうか！自分でも世の中に役に立つことができるんちゃうか」

これが最初の印象でした。漠然と林業や山の仕事のこと

は知っていて、興味をもつて目したのは初めてで、見事に引きつけられました。

この頃の私は、現在の仕事にほんとは嫌気がさし、仕事も行き詰まり、行き場を失っている状態でした・・・。

私の仕事は、精密加工用研磨砥石メーカーの営業をしています。皆さんは砥石というと、包丁や刃物と研ぐ物というイメージが強いと思います。私が、私の行っている会社は化学反応によりできる砥石を製造しており、機械に取り付けて回転させて使用していく物がほとんどです。身近な世界とはかけ離れており、千一万分の1ミリの表面状態を仕上げていく目的に使用されています。

主に、電子部品（パソコンのハードディスク、光ファイバーの部品、プリント配線板、携帯電話等のコネクタ関係、磁気ヘッド等）や自動車、バイクの部品（サスペンション、エンジン部品、ステアリング関係等）を加工するのに使用されます。

割と多種多様な分野で研磨加工は行われており、実際やめたくてもやめられないのが現実になっています。

品質をクリアするためには、どうしても研磨加工が必要ですが、

必ず研磨力スが発生してしまいうため、環境問題が非常にクローズアップされてきています。このような力ス又は燃焼で、土に帰らず、リサイクルも難しいため、処理が大きな問題になってます。それだけでなく最近では家電、自動車メーカーのリサイクル運動、ISO14000による環境基準が広まっており、いろいろな企業が困惑しているのが現実です。

結局こういつた加工する企業は、海外（主に後進国）に工場を移し、廃棄物を垂れ流し、放置しっぱなしで目をつぶっています。

大手企業が環境問題に取り組んでいるようですが、実際は莫大なコストがかかり、このようなことで対処している企業がほとんどになっているようです。

そんなことを思いつつも生活のためとはいえ、仕事している私は何だろう？とジレンマに陥ってました。そこで少しでも自分を変えることはできないのだろうか？と思い森林塾に足を運ぶことになりました。

私はとても出席率が良いとはいえない生徒でしたが、ここで学んできたこと、目にしてきたことは、今までの生き方を少しでも変えていけるような気がして、すっかりした気持ちで明日に向かっていけ

そうです。

島崎先生、保科先生、早川さん、皆さんいろいろとありがとうございました。

二十一年二月二十日



コラム

2月13日に長野で知事と林業関係者との車座集会が開催され、島崎先生、浜久美さん、じよんのびが参加しました。土建業者の参入で仕事が奪われるという森林組合の訴えが主に報道されていきましたが、何が言いたいのか良くわからないお年寄りの支離滅裂な発言も多かったそうです。言いたいことがいっぱいあるけど、

「今まで誰も詳細を聞いてこなかったよ」とじよんのびに言われた不人気のこと

立ち寄り情報

コーナー、来年度も伊那に來られる方の為に、桜について。高遠城址はあまりにも有名で、大混雑（でも価値があるとか）ですが、春日公園もきれいです。去年は4月17日にそろそろという感じで、22日が満開でした。奥がコヒガンで、手前がソメイヨシノ。コヒガンが早く咲きます。南アルプスも見えますし、無料です。夜は花見で賑やかなので早朝がお勧めです。

3年にわたってこの通信の原稿を書かせて頂きましたが、今回で卒業します。楽しく読んでますという励ましのお言葉ありがとうございました。来年度の原稿に名乗りを挙げる方、是非！

「OLIVE三輪」

おわりに

コラムにも書いてもらっています。長野県の田中知事が「脱ダム宣言」をおこない、新規のダム建設をしばらく凍結し、ダムに頼らない治水の方針を発表しました。

そんなこんなで今、山仕事を人々に信州のマスコミの関心が集まっています。森林塾もローカルテレビの取材を受けました。テレビ信州の3月24日10時30分から「森世紀」(仮題)という番組だそうです。

島崎山林研修所の活動や、長野県で初めて女性の林業技能作業士誕生のこと(インストラクターをお願いしている宮崎さんと川原さんです)等も盛り込まれています。ご覧になってください。

さて今回が十二年度の最終回でした。とくに遠いところから来ていただいた方本当にありがとうございました。十三年度も四月末の植林から開催する予定です。ご都合にあわせておいでください。島崎先生も岐阜県立森林文化アカデミーの開校で今まで以上に超多忙となりそうですが、こちらにも極力出たいだければと思っています。



投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065

FAX 0265-70-7994

E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp

mi-tsuboki@koanet.co.jp

携帯:0902-53-26375 (開催日)

H.P.http://www.koanet.co.jp

